

沖 正弘といふ、礎。

いしずゑ

二〇一九年二月十五日

JO^{細文}MONあかでみい 山田 ^{まなぶ}学

(旧かなの良さも研究)

沖 正弘といふ人が、ゐました。一九一九年に生れ、一九八五年に、永眠された。

その人の想ひと実践は、ひろすぎ、深すぎ、簡単には、学び尽せない。

でも、日本社会、ないし人間社会の、これからの諸困難。それを乗り越えるに際し、この人の想ひと実践こそが、礎となるのではないか。

宗教とはなにか。といふより、後世の宗教団体ではない。

シャカ個人、キリスト個人、マホメット個人。日本なら、親鸞個人、道元個人、日蓮個人。

諸聖と呼ばれる人びとは、それぞれの一生において、どういふ求道^{ぐだう}を、されたのだろうか。それにこそ、肉迫したい。これが、沖 正弘といふ人の、想ひと実践でした。

この人は、戦中、陸軍の特務でした。ある任務のため、インドのマハトマ・ガンジーに、会ひに行つた。

マハトマ・ガンジーが、言つた。

「シャカは、ヨガで、悟つたのだよ。」

健康体操や、冥想体験の、水準ではない。

「シャカを悟りに導いたヨガ」こそを、今の人間社会に、復興させたい。これが、沖 正弘といふ人の、想ひと実践の、中心でした。

世のなか、インターネットで、便利になつた。でも、諸民族が調和していくことは、とても、とても、簡単なことではない。

後世の宗教団体ではない。諸聖と呼ばれる人びと個人に、等しく対応させていただく。その求道の実際とは、どういふものであつたか。

修業の源流とも、言はれる、数千年前からの、ヨガの本格復興こそ、そのための、重要なヒントではないか。

沖 正弘といふ人の、ひろく深い想ひと実践こそ、諸民族が調和していくた

めの、礎ではないのか。

この人は、アイアンガー、サチダナンダ、タチャといった、有名なヨガ行者を、日本に呼び、この日本にて、ヨガの世界大会まで開いた。

この人の講演ビデオは、多く、遺つてゐる。が、誤解もされやすい。

なにしろ、戦中派と呼ばれた世代。しかも、陸軍の特務であつた。そのビデオに接し、これはセクハラではないか、これはパワハラではないか。表面を批判することは、むしろ、簡単でせう。わたくしどもは、それを善し、とするわけではないが、その世代の、さういふ人物には、ありえた、表現の一種。あへて、負の面もそのままに、貴重な歴史の資料として、どうか寛容に、接していただきたい。

なにも飾らぬ、誤解もされやすい表現の、その奥にこそ、人間社会そのものへの、ひろく深い愛、それがあつたのでないか。

逆に、なにか麻薬のやうに人びとを酔はせるお話を、沖 正弘といふ人は、一切、否定された。

この人による、有名な標語がある。

信ずるな。疑ふな。自身の感覚と想ひにて、確かめよ。

「おれは、いのちがけの求道の結果、かう想ふ。君らも、できる限り求道し、それぞれの想ひを、大切にしなさい。」

沖 正弘といふ人は、この上なく厳しい人だつたが、ひとりひとりを尊敬する姿勢、でもあつた。本格ヨガは、自由思想なのだ。

人間は、教育や修業が無いと、健康平和な生活が、無い。さういふ、生物なのだ。

この数千年をふりかへり、よく考へれば、おたがひの健康平和な生活を、工夫しやすい社会。さういふ、地道な、あたりまへな社会を、創造していくことこそ、若い世代の目的ではないのか。

沖 正弘とて、なに者？ そんな、ひろく深い人が、この日本に、あたの？ とにかく、軽い関心から、入つていただければ、善い。

この人に直接、接したことがあり、この人を尊敬するわたくしどもは、沖 正弘導師、と呼ぶ。

今年二〇一九年十一月八日に、東京都内にて、沖 正弘導師生誕百年に感謝する会が、ある。沖導師に直接、接した世代も、高齢化が、進んでゐる。その

世代の「同窓会」で、終らせたのでは、沖 正弘導師にも、人間社会そのものにも、失礼ではないのか。

とくに若い方がたに、さういふ想ひを、告白したい。

沖 正弘導師の著は、多くある。精神重点の著と、身体重点の著が、ある。精神重点の主著は、これだ。

『生きている宗教の発見だれでも悟り救われる沖ヨガ修行法』

(竹井出版一九八五年)

この著が再版されるぐらゐの動きも出てくれば、日本社会の礎も、さらにしつかりすると想ふのだが。



1983年11月、沖ヨガ「国際的指導者養成研修」にて
沖 正弘導師に握手される山田 学